

1. 接続法

1. 接続法 ① 接続法とは???

【接続法】って、一体ナニ？

- 日本語に接続法はありません。イタリア語では接続法を用いなければならないようなケースでも、日本語ではいわば直説法に相当する通常の動詞の形態でOKなのです。
- 下の左右の文を比べてみてください。日本語の場合、自分の意見や予想を述べるに当たっては、はじめにその内容を表わす文を作り、それに「~と思うよ」という一言を付け加えるだけで済みます。

日本語： ジャンナは家に**いる**よ。 / ジャンナは家に**いると思う**よ。

※動詞「**いる**」は、左右どちらの文においても同じ「**いる**」という形態のままです。

- 一方、イタリア語の動詞の直説法（通常の活用形）には、**事実をそのまま 告げる**働きしかありません。だから、「~です」と断言する場合は直説法でよいのですが、「**~だと思えます**」と言うときには直説法は使えないのです。そこで・・・

イタリア語： **Gianna è** a casa. / **Penso che** Gianna **sia** a casa.

・・・右側の例文に登場する **sia** というのが、動詞 **essere** の**接続法**です。

- これが日本語なら、左側の **Gianna è a casa.** という文とまったく同様に **è** という直説法の形はそのままにして、この文の頭に **Penso che ...** という一言を付け加えれば済むところです。ですから、**è** と **sia** の違いを日本語に訳し分けることは不可能なのです。

※ 接続法に関しては、訳文に頼って日本語の表現からその意味や用法を理解しようとしても必ず徒労に終わります。日本語は諦め、イタリア語の論理に沿って理解するよう心がけてください。